

# 近畿都市学会報

第181号

2012年10月30日

近畿都市学会

## 近畿都市学会・連絡先

### ■ 近畿都市学会事務局

〒631-8502

奈良市山陵町1500

奈良大学文学部地理学教室内

近畿都市学会 事務局

(担当) 事務局長：酒井高正

> Eメール：[info@kintoshi.org](mailto:info@kintoshi.org)

> ホームページ：<http://www.kintoshi.org/>

> 電話：0742-41-9539

会費納入先：ゆうちょ銀行 振替口座

00990-7-86235 近畿都市学会

※ゆうちょ以外の金融機関からは下記で送金できます。

ゆうちょ銀行 ○九九店 (ゼロキユウキユウ店)

当座 0086235 キンキトシカヅカイ

### ■ 近畿都市学会編集委員会 宛先

(原稿等はすべてこちらにお願いします)

〒530-0001

大阪市北区梅田1-2-2-600

大阪駅前第2ビル6階

大阪市立大学大学院 創造都市研究科内

近畿都市学会 編集委員会

(担当) 副編集長：小長谷一之

> 電話：090-4649-2590

> ファックス：072-721-0064

> eメール：

konagaya@zc4.so-net.ne.jp

## 1. 2012(平成24)年度秋季大会のお知らせ(確定)

2012年度秋季大会は、京都のトロッコに乗るエクスカージョンから始まり、大会発表は亀岡市の御協力を得て亀岡市にて開催いたします。

**【日時】 2012年12月2日(日) 9:20~20:00(懇親会含む)(予定)**  
(例年と違って日曜日ですのでご注意ください。)

**【会場】 亀岡市役所内 市民ホール【地図は最終ページ】**

**【プログラム】**

**(1) 9:20~12:00 エクスカージョン《事前申込制》【地図は最終ページ】**

**【集合時刻】 午前9時20分**

**【集合場所】 嵯峨野観光鉄道「トロッコ嵯峨駅」(トロッコ嵐山駅ではありません) の駅コンコース【地図は最終ページ】**

**【備考1】 JR嵯峨野線(山陰本線)ご利用の場合は、「JR嵯峨嵐山駅」下車、改札口を出て左(南)側に進み、南口を出たところの右手に「トロッコ嵯峨駅」入り口があります。**

**【備考2】 「JR京都駅」9:00発普通列車(園部行き)に乗車すると9:16に「JR嵯峨嵐山駅」に到着します。**

**【コース】 「ジオラマ京都JAPAN」見学→トロッコ列車乗車(「トロッコ嵯峨駅」10:07発、「トロッコ亀岡駅」10:30着、以後マイクロバス使用)→亀岡市文化資料館(会議室で亀岡の歴史等説明)→亀岡城址(車窓)→本町(歴史的町並みの残る地区)→西垣家住宅等見学→鎌蔵見学→造り酒屋見学→亀岡市役所 12:00**

**【費用】 ジオラマ入場料および列車運賃：約1,000円、昼食代：1,000円(参加者の皆さまには市役所到着後レストランにて昼食をお召し上がりいただきます)。**

※ エクスカージョンはまだ若干空きがございます。申込は電子メールにて事務局

へ（電子メールの使えない方は郵便はがきにて）。定員20名で、先着順に申込を受け付けます。定員に達した場合には受け付けを終了します。

**(2) 12:00～13:30 昼食休憩**

**(3) 13:30～13:40 山田浩之会長挨拶**

**(4) 13:40～14:40 特別講演**

亀岡市副市長 湯浅敬三氏

亀岡商工会議所専務理事 清水宏一氏

**(5) 14:40～17:00 一般研究報告**

**[1] 「イングランド中北部の工業村と郊外住宅地形成」**

安田孝（大阪商業大学大学院非常勤講師）

**[2] 「製鉄都市ハミルトンの近年の変容」**

酒井高正（奈良大学）

**[3] 「文化資源を活かした堺山之口商店街の再生」**

小川雅司（羽衣国際大学）

**[4] 「大阪外郊外の都市（三重県名張市）の変容」**

山田正人（星城大学）

**[5] 「現代中国の居住貧困の事実整理と考察」**

閻和平（大阪商業大学経済学部）

**(6) 17:30～20:00（予定）懇親会「お食事処はっとり」**

**[予定] 会費4,000円（学生は2,000円）**

★例年自治体開催である秋季大会は、亀岡市のご協力を得て、亀岡市中心部で実施することとなりました。悠久の歴史を有する亀岡市の都市創造について副市長湯浅様と商工会議所専務理事清水様にご講演いただき、エクスカッションでは、発展著しい亀岡市のまちづくりをはじめ、観光資源豊かな亀岡市を見せていただきます。

### **【亀岡駅から市役所への直接行かれる方のための交通案内】**

JR嵯峨野線（山陰本線）「亀岡駅」より徒歩約15分（約1km、コースは最終ページの地図参照）またはバス約4分。

#### **【「亀岡駅前」バス時刻】**

京阪京都交通 土休日12～14時台、「亀岡市役所前」方面ゆき発車時刻

いずれも「亀岡市役所前」下車、所要約4分、運賃160円。

- ・60系統（2番のりば） 学園大学ゆき 12:08、12:32、12:53、13:08、13:32、13:53、14:08、14:32、14:53
- ・34系統（3番のりば） 穴太寺前ゆき 12:00、13:00、14:00
- ・40系統（3番のりば） 園部駅西口ゆき 13:36、14:32
- ・5系統（4番のりば） 千代川駅前ゆき 12:03
- ・3系統（4番のりば） 園部駅前ゆき 13:33

最新の時刻表やのりば案内は…<http://www.keihankyotokotsu.jp/>

※亀岡市コミュニティバス（2番のりば） 西（右回り）コース 13:35（「亀岡市役所」下車、所要約6分、運賃100円）

#### **◆自家用車の場合**

当日は亀岡市役所の駐車場をご利用いただけます。

---

---

### Ⅲ. 「都市研究」第12巻 ふるってご投稿ください!

---

---

【都市研究第12巻の査読論文の公募について】(編集長：綿貫伸一郎)

第12巻の査読論文を募集いたします。**締切りは(延長し)2012年11月末日とします。**執筆要項は『都市研究』の各号に掲載しておりますので、会員のみなさまのご投稿をお待ちしております。**(バックナンバーは巻頭の事務局までご連絡ください)。**なお、投稿は巻頭の編集委員会までお願いいたします。

---

---

### Ⅳ. 近畿都市学会理事会のご報告

---

---

近畿都市学会2012年度第4回理事会は、日時：2012年10月15日(月)に大阪市立大学文化交流センター談話室(大阪駅前第2ビル6階)で開催され、秋季大会ほかの事項を検討しました。

---

---

### Ⅴ. 日本都市学会 第59回大会(九州で開催)のご報告、 日本都市学会 第60回大会(中四国で開催)のお知らせ。

---

---

日本都市学会第59回大会(2012年度)は、『都市の進化』と題し、九州都市学会が担当し、2012年10月26日(金)・27日(土)・28日(日)に北九州市・西日本工業大学(西小倉)で開催され、洞海湾クルーズや小倉のまち並みを見学、北九州市長ほか関係者がご講演され、かつて都市学会が主導した北九州市合併の経緯に関するシンポジウムなどをおこない、大盛況のうちに終わりました。

日本都市学会第60回大会(2013年度)は、中四国都市学会が担当し『地方都市と国際化・国際交流』をテーマに高松市で開催予定です。詳細はホームページで追って連絡してまいります。学会員の皆様はスケジュールの調整をよろしくお願いいたします。詳しくは日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/> をご覧下さい。

---

---

### Ⅵ. 事務局より(会員異動)

---

---

<新入会員>

閻和平(大阪商業大学経済学部)

専門分野・研究テーマ：都市経済学・住宅政策・中国経済論

---

---

### Ⅶ. 2012年度秋季大会研究発表要旨

---

---

#### [1] イングランド中北部の工業村と郊外住宅地形成 安田孝(大阪商業大学大学院非常勤講師)

##### 1. はじめに

2011年のローカリズム法の検討過程では、その政策目標とするところは経済、環境、社会的計画方針を提示することであるとしていた。2012年3月に公表された国家計画政策枠組みでも導入部で、サステナブル発展達成のための13の目標を示している。それは強い競争的経済の確立などの経済的項目、サステナブル交通推進などのインフラ整備、健全なコミュニティ推進などの社会的目標とともに自然環境と歴史的環境保全などの環境目標である。

そこで本報告では、経済的再生をコミュニティ再建と自然的歴史的環境の保全を通じて実現しようとしているイングランドの具体的空間構成を、歴史的、制度的に概観すること

により、我が国の都市政策、環境政策の方向を考える手がかりになればと思う。

## 2. イングランドの近代と歴史的環境形成

工業村と郊外住宅地を含む概念として田園都市や田園郊外があるようで、その初期は17世紀であろうか。ヨークシャーでも18世紀中頃にはいくつかの工業村の記録がある。ランカシャーではあるが、マンチェスター南部に位置するスタイルはナショナルトラストにより運営されている注目すべき事例である。創設者のサミュエル・クレッグはマンチェスターでも活動しており、スタイルには従業員住宅や工場が、周辺の緑地とともにピクニック空間として整備されている。

その東部のブラッドフォードとハリファックスには、19世紀中頃のソルテア、コプリ、エイクロイドンがあり、ソルテアは世界遺産に登録されている。前者はタイタス・ソルト、後2者はエイクロイドという繊維産業事業主の計画によるものであり、イタリア風の影響があるという。

さらに東部と北部のハルとヨークにはハル・ガーデンビレッジとニューイヤーズウィックがあり、前者はレキット、後者はローントリーという20世紀初期の事業主の従業員を主とする住宅地開発である。このころには田園都市運動もよく知られるようになり、南部はロンドン中心で中北部ではヨークやハルが主となり、パーカーやアンウィンのプランもいくつか提案されていた。

## 3. パターナリズムからコーポレットへ

エイクロイドンやニューイヤーズウィック、ハル・ガーデンビレッジでも工場従業員以外にも住宅提供が開始されていたようだが、第一次世界大戦後は自治体による住宅政策として広く展開されるようになった。その事例としてリバプールのスピークやマンチェスターのワイゼンショーがあり、後者では初期にパーカーのプランが作成されている。

## 4. 歴史的遺産としての景観

戦間期や戦後の中高層住宅地の多くは建て替えられたが、工業村と低層住宅地は歴史的遺産として保全整備されている。地域のアイデンティティと景観形成の構成要素として重要であろう。

## 〔2〕製鉄都市ハミルトンの近年の変容

### 酒井高正（奈良大学文学部教授）

ハミルトン市（オンタリオ州）は2011年国勢調査で519,949人の人口を有し、バーリントンおよびグリムズビーを合わせたハミルトン都市圏（CMA）では721,053人で、カナダ全国では9番目の人口規模のCMAである。2006年国勢調査からの5年間では、カナダ全国の人口増加率5.9%には及ばないものの、ハミルトン市で3.1%、ハミルトン都市圏で4.1%の増加率を示している。オンタリオ湖の西端に面して水運に恵まれ、トロントとアメリカ合衆国を結ぶ陸路上に位置するという条件から、Stelco（現在はUS Steel）とDafscوといった大手製鉄企業が立地し、Steel Cityとして発展してきたが、近年は世界の景気動向から業績にも悪影響が出ているようである。こうした状況下で成長を続ける都市の姿を、2011年度に在外研修の傍らで垣間見てきた。都市地理の眼で気付いた点を列挙してみる。

- ・200年余りの市街地形成の歴史を持つ中心市街は、約50年ほど前から再開発が進められてきている。

- ・広大な駐車場を持つ郊外型の商業施設が隆盛であるが、市街地の各商店街でも、各地域の特色をいかしたイベントの実施など、活性化への取り組みがみられる。

- ・市内の公共交通はもっぱら市営交通Hamilton Street Railwayのバス輸送に頼る状態であるが、市街西端のマクマスター大学と東端のイーストゲートスクエアを結ぶLRTを建設し

て軌道輸送を復活する構想が検討されている。

- ・市内の数箇所で、それぞれの立地条件を活かした大規模なビジネスパークの開発が進められている。

- ・ナイアガラ崖線が市内を縦断しており、そこには 100 を超える滝がある。湿地、氷河地形、カルスト地形など環境保護地域が各種設定されている。湖岸線、厩線沿いや鉄道廃線敷地にはトレイル（遊歩道）が設けられている。これらについて、行政が N P O などとも連携して、整備を進め利用客の誘致を図っている。

- ・トロントの郊外都市としてトロント＝ハミルトン大都市圏 G T H A の一部を形成している。オンタリオ州政府も出資する第 3 セクター Metrolinx 社は、鉄道とバスを一体化した大都市圏内における都市間公共旅客輸送システムの整備を進めている。その際、パークアンドライドも活用して、ハミルトンはじめ各都市のバスと連携した輸送を行っている。

本報告では、上記について整理するほか、人口データの分析も加え、都市発展のあり方を考えてみたい。

### **〔3〕文化資源を活かした堺山之口商店街の再生**

#### **小川雅司（羽衣国際大学現代社会学部准教授）**

堺山之口商店街は堺市の旧市街地に位置する。堺市内で最も古く歴史ある商店街で、当商店街で高価な専門店を買うことが 1 つのステイタスであったと言われるほど、昭和初期までは心齋橋と並ぶ第一級の繁華街であった。しかしながら、現在は他の多くの商店街と同様、空き店舗が増え続け衰退過程にある。その原因は実に様々ではあるが、住吉大社の御旅所であった宿院頓宮や開口神社に隣接して発展したため、近隣の商店街と比較して専門品を取り扱う店舗が相対的に多く、これが当商店街特有の衰退要因となっている。

商店街の再生を考える際、商店街内部の資源だけで活性化を行なう必要はない。商店街は地域に根付いて発展してきた地域社会の一員である。したがって、周辺に存在する様々な資源を活用しながら商店街づくりを行なうべきである。それでは、堺山之口商店街にとって、核となるべき資源は何であろうか。堺市の旧市街地には、小規模ながら魅力的な資源が数多く存在するが、堺山之口商店街との関係性を考えると、それは与謝野晶子以外にないであろう。堺山之口商店街から徒歩数分のところに晶子の生家跡があり、隣接する開口神社の樟を詠った詩歌もある。このように、堺山之口商店街の周辺は少女時代の晶子が生活した唯一の「ふるさと」である。

そこで本報告では、与謝野晶子という観光文化資源を活かし「晶子のふるさと山之口」をテーマに再生を図る堺山之口商店街の取り組みを過去・現在・未来に整理して考察する。そもそも、堺山之口商店街が晶子に着目したきっかけは、2007 年 5 月に始まった「与謝野晶子プロジェクト」である。このプロジェクトは商店街の有志や晶子の愛好家が集まり実施したもので、商店街の一角で晶子カフェや勉強会、イベントが行なわれた。その後、いくつかの組織が立ち上がり、晶子の顕彰活動が行なわれたが、堺山之口商店街はこの時点では、与謝野晶子をテーマにすることに否定的であった。

時は過ぎ 2009 年 3 月、堺山之口商店街に晶子の詩歌が描かれたタペストリーが登場した。否定的な意見も多かったが慎重に検討した結果、与謝野晶子を再生のテーマにすることを決定し、現在、様々な取り組みに挑戦している。たとえば、「堺市堺版元気な商店街創出事業」に申請し認定され、再生の方向性を調査している。特に商店街から徒歩数分の場所に、堺市が平成 26 年末に「文化観光拠点」（千利休と与謝野晶子をテーマにした施設）を開設することが決まっており、その施設との連携計画の策定に取り組んでいる。生家の駿河屋を基調としたファサード整備や前掲したタペストリーの増設、それらの計画を通じ

た「こころの活性化」など、ハードとソフトの両面から活性化を目指している。

最後に堺山之口商店街の未来について触れておきたい。報告者は 2005 年 9 月より、当商店街の顧問（当初はアドバイザー）として、当商店街の指導を続けてきた。今回の調査結果をもとに、これまでの経験を踏まえて、堺山之口商店街の再生と地域社会での役割、それらを果たすべき具体的な取り組みについて試論を展開する。

#### **〔4〕大阪外郊外の都市（三重県名張市）の変容** **山田正人（星城大学准教授）**

三重県名張市は、大阪から近鉄の特急でちょうど 1 時間であり、そのため大阪の外郊外として知られてきた。市の統計によると、昭和 40 年頃から、50 戸以上開発された団地が 40 あり、それぞれ建築確認が出された。最大のものは桔梗が丘であり、200 万 m<sup>2</sup> の土地に約 3700 戸の区画があり、次いでつつじが丘 190 万 m<sup>2</sup> の土地に約 4700 戸、百合が丘 160 万 m<sup>2</sup> に約 2900 戸などがある。

桔梗が丘は、近鉄不動産によって造成され、名張駅より一駅名古屋寄りの桔梗が丘駅とともに開発されたため、朝夕だけ特急も止まる。しかし、現状では鉄道の利用者は減っている。自動車为主要な交通手段になっている。以前は、約 10km 北側を走る国道 25 号名阪国道へのアクセスが弱かったためもあり、鉄道が唯一の交通手段であった。しかし、今、道路も整備され、国道 25 号名阪国道の自動車専用道に出れば、大阪の南半分や、亀山、津方面にも早くでることができる。このため、平成 22 年の国勢調査の速報版によれば、大阪に通勤する人が減り、伊賀市への通勤者が大幅に増えている。いままでに、見られなかった傾向であり、確実に世代が変わっていることを名張市が言っている。

つつじが丘、百合が丘の団地と名張の旧市街の間には、標高差がある。山の中腹を切って生まれた土地に立地した団地が多く、バスで名張駅また桔梗が丘駅のいずれかにアクセスする。5 分程度から十数分程度バスに乗り、場所によっては数百 m 歩くことが必要になるが、自家用車を想定すると 10 分程度で駅前のデパートや谷合の大規模ショッピングセンターにつく。一方で日常生活必需品など置いた、スーパーマーケット、一般小売店などは、各団地にないか、あっても世代替わりが難しいことが挙げられる。団地内の常住人口密度が低くなれば立地点を選んでも、あとはどのような経営戦略をとるか、とれるかである。各団地の区画がすべて立地されているならまだしも、団地の多くは、最初から入居率（造成された区画のうち家屋が建ち入居している率）は 85% から、少ないところでは 30% となっており、高くない。

筆者は、公共交通と減築（家屋が建っていたのだが、人口減少に伴い家屋がなくなる）の関係について調べている。今回は、世帯数の減少を見ている。その結果、国勢調査で見た場合、12 年から 17 年には、既存の市街地（旧中心地）で人口減少が見られたが、17 年から 22 年で見ると、桔梗が丘ではトータルでは減っていないが住区単位で見ると、大きな減少が見られる。人口が入れ替わっているとみるべきか。周辺の他地区をあわせて、重相関分析、クラスター分析を摘要してみる。

#### **〔5〕現代中国の居住貧困の事実整理と考察** **閻和平（大阪商業大学経済学部）**

1978 年の中国都市部一人あたり住宅使用面積が僅か 3.6 平米であった。殆どの人々が居住貧困状態にあったと言えよう。そして、改革 30 年後の 2008 年には 23 平米に達し、住宅事情が劇的に改善した。しかし、こうした住宅の量的改善と裏腹に、居住貧困が多様化し、居住格差が著しくなった。

中心市街地では、古民家は元々上下水道も衛生設備もなく、さらに、修繕が怠って危険住宅と指定されたものも少なくはない。経済成長の波に乗り、収入を大きく伸ばした人々が近代的なマンションに移り住んだが、リストラに遭えた人々、定年退職されたブルーカラーなどの低所得者層が老朽化した古民家に留まっている。

2010年の中国の持ち家率が80%を超えている。持ち家の多くが勤務先からの払い下げ社宅である。旧社宅はマンションが多く、住設備が一通り備えているが、建物の老朽化に加えて入居者の高齢化が深刻である。ここでも高所得者が転出して低所得者が残る構図となっている。

中心市街地、旧社宅地区は、建物の老朽化、居住者の高齢化、低所得者が多いことが共通している。一方、これらの住宅は交通便がよい割には家賃が安い。そのため、市外から流入して来た人々の受け皿となり、フィルタレーションの役割を果たしている。

中国都市部では最も劣悪な居住環境に置かれているのが、都市戸籍をもたない市外からの流入者である。その居住貧困ぶりからして近年蟻族やネズミ族などと呼んでいる。蟻族とは蟻のように所狭しに間借りして高密度に居住していることを揶揄したものである。蟻族は主として大卒したばかりの若者で、彼らは学歴が高いが、職が不安定で収入も高くない。彼らの住んでいる住宅はスプロールが進んだ郊外に位置し、そこから近くの産業団地に通勤する。しかし、これらの住宅は農民による違法住宅が多い。ネズミ族とは防空壕や地下室を住宅代わりに借りている人々である。これらの施設は生活や衛生施設は全く不十分だけでなく、居住利用自体が違法である。しかし、家賃が安い上、利便性がよいため、市外からの流入者が多く利用している。

中国都市部の居住貧困は第一義的に所得貧困に起因している点では世界と共通性を有し、特に都市常住人口に関してはそうである。現在、政府は低所得者向けに公営住宅や家賃補助などの施策を打ち出している。一方、市外からの流入者の居住貧困要因として戸籍制度の存在は肝要である。さらに、両者に共通するのが居住の不安定性である。蟻族やネズミ族が居住する住宅そのものが不法住居であり、中心市街地は常に再開発の立ち退きに直面する。もとより、都市土地の国有、土地所有権の曖昧さが現代中国の居住貧困問題の基本原因だと言わなければならない。

## ■【近畿都市学会入会（日本都市学会同時入会）案内（抄）】・・・・・・・・・・・・・・・・

**1. 代表的な年間活動：**（1）学術雑誌『都市研究』を年1回発行。（2）『近畿都市学会報』を年4回発行。（3）学術雑誌『日本都市学年報』を年1回発行〔日本都市学会事業〕。（4）『日本都市学会ニュース』を年2回発行〔日本都市学会事業〕。（5）近畿都市学会大会を年2回開催（春季大会は大学・学術研究機関等、秋季大会は地方自治体）。（6）他に日本都市学会大会を年1回開催〔日本都市学会事業〕。（7）日本都市学会賞（奥井賞、論文賞、まちづくり賞、共同賞）の授与〔日本都市学会事業〕。

**2. 普通会员の特典：**（1）上記、雑誌『都市研究』（年1巻）の購読、投稿（査読論文部門）の機会。（2）上記、『近畿都市学会会報』（年4号）の購読の機会。（3）上記、雑誌『日本都市学会年報』（年1巻）の購読、投稿の機会。（4）上記、『日本都市学会ニュース』（年2号）の購読の機会。（5）上記、近畿都市学会大会（年2回）への参加、発表の機会。（6）上記、日本都市学会大会（年1回）への参加、発表の機会。（7）上記、日本都市学会賞の授与対象となる機会。※日本都市学会は地域学会（近畿都市学会他）から同時入会となります。普通会员は、年会費8000円（日本都市学会会費4000円＋近畿都市学会会費4000円）です。団体等は、特別会員（年会費10000円）となります。

**3. 申込連絡先：** ニューズレター表紙の近畿都市学会事務局まで

# Ⅷ. 2012(平成24)年度秋季大会会場(トロッコ~亀岡周辺)地図

